



●今月の表紙●

今月の釣り人は「楽釣宣言」の山内研作さん。  
釣り場は印旛沼の甚兵衛広沼の松の木前。この  
場所は今月の特集でも紹介されているように、  
カバ際の大型狙い。ここでの釣りにハマっている  
山内さんは連日のように印旛語で。  
夕方、ゴムボートを駆使しての撮影だった。

## 4 へら鮎釣り新時代宣言特集

## Neoへら インビテーションナル

## 第1戦 高滝湖

マルキュー&釣りビジョンが打ち出す新機軸、その姿を現す。  
超弩級、「巨ベラ合戦」の様相を呈した第1戦を、完全レポート!

## 16,50 へら鮎釣り新時代宣言特集Ⅱ

## NHC発足スペシャル対談。

ついに動き出したNHCへらぶなトーナメント。  
へら鮎界に新風を吹き込まんとする、挑戦者達の燃え上がる情熱!

田辺哲男&amp;小山隆司

## 178 野釣り讃歌特集

## 印旛沼を見直そう!

乗込みだけじゃない、魅力満載のフィールド!

18 名手・石井旭舟がいく、へら鮎出会い旅… へらぶな浪漫街道  
《第七回》四番川調整池、秀天、岡山へら浪漫。26 スーパーアングラー小池忠教のエサ合わせ大全  
《Vol.7》桑留比～前浜。西湖の藻場を攻めろ!34 大型狙いの楽釣宣言! 山内研作&生井澤 聰  
《第7回》印旛沼・甚兵衛広沼(千葉県)40 欅網 久の対決mode 1, 2, 3!  
《Battle.28》チャレンジャー:宮田将弘VSトーナメンター:都祭義晃  
超高速バトル!! 驚異のスピードスターを現代トーナメントを疾駆する金狼が迎撃つ!

## 46 第7回 椎の木湖杯

118 杉山達也のSPLASH BEATⅡ  
《Vol.7》柳生F.P月例大会で頭を狙え!126 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!?」  
《Vol.7》星野和之登場! 野田幸手園での爆釣技とは?130 熱血釣り女・吉川ひとみがいく!「へらってヤバイわっ!!」  
《第13回》岐阜県・三川フィッシュパークに遠征!  
GUEST:長村康義さん134 釣りクラブ見参!  
《第46回》フジへら研 田島池(栃木県佐野市)136 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男  
《今月の釣り人》三島湖に憑かれた男 宇井辰雄さん138 竹は活きている  
⑦京都・嵯峨野の竹林140 列島縦断 旅するカメラ  
《千葉県34》千倉～白浜ほか 笹川湖(片倉ダム)ほか188 西日本川釣り紀行 北川穂積  
《第7回》加古川(兵庫県)192 フィッシングレディ  
《今月のレディ》富安晶子さん 椎の木湖(埼玉県羽生市)

56 ガッツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記  
《第12回》清遊湖(千葉県沼南町)

60 電話で突撃!! 関東近辺釣り場情報

## ★エリアレポート

62 力丸ダム(福岡県)	河口正伸
64 薬勝寺池(富山県)	山本一朗
65 佐仲ダム(兵庫県)	前田誠志
66 つじ池(岐阜県)	後藤 誠

68 新連載 あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮎釣り  
《第3回》へらウキって、どんな種類があるの???

70 人間カーナビ稻毛利夫の実釣!野べら釣り歩き  
《第7回》つくば市の野池(茨城県)

75 江成公隆のトーナメンター、復活への道。  
佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!  
《Vol.13》北城 錦の底釣りゼミ⑦ ~「裏」ゼミ~

82 GOZYUKKAMI TREASURE HUNTER アマヤン 天野正由  
《その7》激釣! 河口湖

86 水辺のプラネタリウム 吉本亜土  
《今月の星空》「救急車」

91 元気が出るへら鮎 西田美明  
《第7回》「雨はいやだが…」の巻

94 2003がまかつへらぶなチーム対抗戦 西日本大会  
レークサイド水茎 ~上村恭生 大会参戦記~

98 最狂へら戦士養成所“鮎の穴” 高橋謙司  
《第六話》今月の指令:死にゆくへらを救出せよ!

102 野田幸手園新聞

104 ワクワク管理釣り場情報

108 小売店情報

146 好きです! へら鮎釣り! 松戸 健  
《人物往来46》藤田 保さん

149 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記  
《その15》千波湖&新堀(茨城県水戸市)

## 156 トーナメント速報

バリバスカップへらトーナメント2003予選結果  
G杯南・北関東予選結果 羽生吉沼100万円賞金大会

## ★へら鮎BOX

161 里ちゃんの新米編集長雑記
162 情報地獄三三
164 ボイス
170 新人モロちゃん奮闘記
171 プレゼント発表
172 釣果予想クイズ

175 広告索引

176 編集後記

※「業界のタブーに迫る!!」「旅するカメラ 取材番外 思い出話」「わが輩はへら鮎である」は誌面の都合により休ませていただきます。

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメントー、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web連動企画！（URL）http://hesar.yokohamatsurumi.net

佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!

〈Vol.13〉 北城 錦の底釣りゼミ⑦

## 「裏」ゼミ！

Q.. 完全底釣り（規定）では「上バリトントンが微妙」と書いてありました。これはどういう意味ですか？

…つまらない事を言われたくない人にはトントンはつらいでしょうね。もちろん大きくズラしてナジミが小さい状態というのも、落ち込みで受けさせたままアタラせるように見えるといわれたら、それまでです。やや手前に落とし込んでナジミがアマイ時は、もうすでに返す分がほとんどないからです。「完全底釣りになつてあるのか・切れているのか」…スレと同じで自己申告です。釣り人の良心という部分ですね。

江成の回答：例えはちょっとでも底が掘れたらすぐ底が切れるわけです。また、重めのタナゴで仕掛けをピンと張ってタナ取りしている人は、実際に釣る状態で仕掛けをポイントに入れると、上バリはまず底を切ります。（重いゴムで斜めに測ってるっていうのはナシ（笑）。まっすぐ測ってる前提で。（\*1）これは仕掛けがたるんでいるためです。あと、底のエサ落ち目盛は、宙でのエサ落ち（ハリの重さが2本ともかかった状態）より少し余分に出るわけですから、この差分を忘れてしまえば仕掛けのたるみがなくても上バリは切れてしまいます。水深という点で微妙というわけです。さらに、ズラし気味のタナ設定よりもナジミもアタリも比較的大きい事が、端から見ている人に底釣りなんか？という疑念を抱かせるわけです。もっとも使っているウキやハリで人によって全然違ってくる部分なんですが。現在の1m規定で、落ち込みはアリなのか？というテーマと似ていますね。じゃあ一度ウキが垂直に立つてからなら何でもありにしようとか、一度トップにかかるてからならないとか…いろいろありますね。垂直についてても、横からも見ないとわかんないで脱線しました。話を底に戻しましょう。一般的には「返して」というリズムが底釣りである証拠？として使われています。厳密には宙と同じく、ナジんでいればエサが溶ければ底に着いてしまう。それでも出ます。釣っている本人には分かることもありますけど、水中は見えませんからね…。難しいテーマです。

● 空バリで（も）トントン

○ エナジンでトントン

最初の理論上のトントンにエサを付けた状態の事も指すし、片ズラシ（上バリは完全に宙）でもエサを付けると上バリも底に着く状態も指します。要はエサを付けねばちゃんと底に着く程しか切れませんって事です。重いダンゴで釣つてる場合なんかは、魚がない状態なら、ナジミ幅で判断できます。例えば宙でタナを深くしていって、「あ、ナジまない！底着いた…」ってやつと同じです。エサが持つてないと当然判断つきませんので。今はへらがうすい大昔のように、エサでタナ取っちゃいけません。

BBSに寄せられた質問に答える！

もちろん釣りながらの参考にはなる訳ですが。※ズラシ幅の分類などどうでもいいんで、自分の基準を決める事です。タナ取りの方法色々あります、それぞれのメリット・デメリットを考えて自分に合ったものを選べばいいと思います。本当の水深と誤差があります。それを基準の水深にして、自分のイメージ通りのタナに修正していくのが底釣りなんですね。

\*「この後に追加取材が行われ、このBBSをプリントアウトしたものを見城氏に読んでもいたところ、氏のチェックが入りました。詳しくは2月号に書きましたが、氏はそうそう浅く誤測はないと言いました。僕も今はそう感じていますが、「ちょっとでも底が掘れた底を切りやすい」のは事実ですので、微妙なタナ設定である事には変わりありません。

Q・アンカーになるのはエサだけですか？  
ハリもそれなりに重たいと思うんですが。

江成の回答：ハリの重さも当然関係してくれるとは思います。でも一番大事なのはエサではないでしょうか。

摩擦には接する面積が重要です。つまり底と接地している部分の面積のことです。エサがついてる間は接するのはハリではなくてエサですし、面積も大差がありますね。空ハリで打ち込んでみたときに、ハリ一つ分くらいは宙でのエサ落ちより出でますよね？（トップとハリのセッティングは合っているとして※私はパイフではハリ一目盛をいつも基準にしています）両ハリとも空ハリでもズしている場合、両方のハリでちょうどハリ一つ分くらい消えているのか、ほぼ下ハリの目方が消えると捉えていいのか分かりませんけど…。もし両方でなら、イメージ的には上3：下7くらいの比率ですかね

（残ったテンションの内訳は、この逆になります）5：5のはずはないと思います。記事の中で軽く触れてますが、ハリスの角度によるテンションの差です。重力でたまるむと書きましたが、たるみが大きいのは「角度が大きい方のハリス＝ズラシの大きい方」下バリとなります。「理論上のトントン」以上に切り気味の設定であれば、完全に消えるかどうかは別として、これは純粋に下バリ分ということがあります。それを基準の水深にして、自分のイメージ通りのタナに修正していくのが底釣りなんですね。

角度によるテンションの差です。重力でたまるむと書きましたが、たるみが大きいのは「角度が大きい方のハリス＝ズラシの大きい方」下バリとなります。「理論上のトントン」以上に切り気味の設定であれば、完全に消えるかどうかは別として、これは純粋に下バリ分ということがあります。それを基準の水深にして、自分のイメージ通りのタナに修正していくのが底釣りなんですね。

（エサの重さ）が変わっても、力の釣り合い状態が変わることはあります。常に上向きと下向きの力（エサ落ちまで戻る）が働いていて、その大小では説明がつきません。（力の釣り合いを崩すのがアタリです）。縦に、ウキに作用する上向きの力（エサ落ちまで戻る）とすが、ただサカナがエサを食べやすいかどうかだけの話だと思うのですが…。

ともかく、「バランス状態は下に入りやすい」と思っています。だからこそ普遍的な基準としての用語になり得たのではないか。空のハリがする悪さは、重さによるアンカーよりも、コリを拾つて来る事によるアンカー（シモリ）ではないでしょうか…。

Q・「バランス状態では下に入りやすくなっている」との事ですが、ナジみきつている状態と比べてたしかに2～3目盛ですが、そんなに違うでしょうか？ エサ落ちまで出ていても空ハリまで戻ろうとしているし、オモリに引っ張られていることを考えたら、いつでも上に上がるとする力があるのではないかでしょうか？

江成のコメント：Bさんのおっしゃりたい事は、何となく分かります。要するに、まだエサがしつかり残っている時に、戻りが出ているケース（ズラシが大〇テンション小）でのサワリの差ですね。ハリスの張りだけで考えれば、ナジんでいる方がサワリが出来やすそうなのに、戻っている方が小さくてもよくサワついているようを感じるという事だと思います。北城氏が言っている事は、ものすごく長い年月での経験がベースですから、実際のウキの動きやサワリの出方は間違っていないと思います。後から付けた理屈にやや問題があったということなのでしょうか。（＊）

しかし、これだけではまだ矛盾があるように感じるはずです。次に、Aさんが引用しなかつた部分を足した文章を読んで下さい。以下のとおりです。

読者Aさんの回答：「バランス状態では下に入りやすくなっている」「ナジんだ状態ではウキにはエサ落ちまで戻ろうとする力が働いていて、その反対方向に引くには大きな力が必要」とのことですが、力学的には間違いだと思われます。まず、「物体がそこにある（静止している）状態」は、「対象とする物体に作用する力がすべて釣り合っている状態にある。」ということなのです。これが、力学的には間違いだと思われます。「物体がそこにある（静止している）状態」は、「対象とする物体に作用する力がすべて釣り合っている状態にある。」ということなのです。この反対方向に引くには大きな力が必要」とのことで、Aさんのコメントは「宙では」全くその通りです。言い訳になりますが、この文章は実は10年前の「へら鮒の底釣り特集記事で、私の言葉としてすでに使われていたらしく、江成君もそのまま転載してしまった」という事になります。オリジナルは当時のE記者がインタビューをし、記事にしたものですが、私はちゃんと読まなかつたのか、この間違いに気付いていませんでした。今回、事前に江成君の原稿を読ませてもらいましたが、またしても見落としてしまったようです。E記者のミスは、「バランス位置（エサ落ち目盛）」と、「バランス状態」を混同してしまったという事になります。そこで、以下のよう訂正させていただきます。私が言いたかったのはこうです。

「エサ落ち目盛まで戻した状態では、下に入りやすくなっている」

しかし、これだけではまだ矛盾があるように感じるはずです。次に、Aさんが引用しなかつた部分を足した文章を読んで下さい。以下のとおりです。

「余分な負荷がかかっている（ナジんだ状態）ではウキにはエサ落ちまで戻ろうとする力が働いていて、その反対方向に引くには大きな力が必要」

余分な負荷とはなんでしょうか？ エサの重量だけではありません。エサと底との摩擦もあるわけです。「余分な」とは言っても、底釣り

がすべて釣り合い状態にある」ということなのです。もちろん、ナジんだ状態にあるウキにはエサ落ちまで戻ろうとする力の大小では説明がつきません。」とAさんは書いています。釣り合いを崩す際に必要となる力に差はあるのかないのかまでは言及していない、と私は受け止めました。（＊）

北城氏の回答：「バランス状態では下に入りやすくなっている」「ナジんだ状態ではウキにはエサ落ちまで戻ろうとする力が働いていて、その反対方向に引くには大きな力が必要」とのことですが、力学的には間違いだと思われます。「物体がそこにある（静止している）状態」は、「対象とする物体に作用する力がすべて釣り合っている状態にある。」ということなのです。この反対方向に引くには大きな力が必要」とのことで、Aさんのコメントは「宙では」全くその通りです。言い訳になりますが、この文章は実は10年前の「へら鮒の底釣り特集記事で、私の言葉としてすでに使われていたらしく、江成君もそのまま転載してしまった」という事になります。オリジナルは当時のE記者がインタビューをし、記事にしたものですが、私はちゃんと読まなかつたのか、この間違いに気付いていませんでした。今回、事前に江成君の原稿を読ませてもらいましたが、またしても見落としてしまったようです。E記者のミスは、「バランス位置（エサ落ち目盛）」と、「バランス状態」を混同してしまったという事になります。そこで、以下のよう訂正させていただきます。私が言いたかったのはこうです。

には必要なアンカーですが、この要素は底釣りにだけあるもので、宙釣りにはありません。つまり底釣りは、完全なバランス状態ではない、と思うのです。

「物体がそこにある（静止している）状態」は、「対象とする物体に作用する力がすべて釣り合いの状態にある」わけですから、力学的には底との摩擦まで含めてバランス状態というのかかもしれません。うまく言えないのですが、仕掛けだけ見れば、釣り合っている状態とは言えないという事になるのでしょうか。そのため、「余分な負荷がどれた状態＝エサ落ち付近まで戻した状態」でアタリを取りましょう、という事を言いたかったのであり、そういう状態にするためにはズラシを多くとった方が効果的という事になるのです。ウキからオモリでならバランス状態で説明していいと思います。宙釣りでは、ウキからハリ・エサまで全てを一体として捉えても、ナジみきついれば基本的にいつでもバランス状態ですから、深ナジミでアタリが消されてしまうといった心配はありません。これは水槽実験でも確認済みです。

\*<sup>2</sup>、<sup>3</sup>：北城氏の回答を頂いた現在となつては、江成のただの大ぼけコメントでした：

Q：ドボン編で、ひとつ気になりました。記事の中で参考にと言っていた小池インストラクターの記事（4月号）との絡みです。ほんとに、江成さんは言っていますが、小池さんはカウントしてましたね。これは大した違いではないからいいのでしょうか？

も小さいわけですね。逆に振り込んだら竿を一杯送つておいて、ナジんだら引いても斜めになりますが、ウキのトップが水面上に残る保証はありませんし（笑）、早いタイミングのアタリも捕らえる事が出来ない事になってしまします。その間大きく動かしてしまっているわけですから。

Q：私は外通しをよくやるんですが、玉ウキ付きの仕掛けをわざわざ買って来て使つてしまつたよ。ばつかみたい。ほつといても立つのに…。

江成のコメント：「玉ウキ付きの仕掛け」ですが、実は何にも考えずに僕も使ってました（笑）。でも、ハンドロのキツい底なんかには、使い道あるんじゃないかと感じています。「立せる」のではなく、「潜らせない」ために。だからまるつきり「恥ずかしい」仕掛けではないと思いますよ。でないと、僕の小物入れに入っているたくさんの「手製」の「玉ウキ付きの仕掛け」が壊れ過ぎます（笑）。

ングでの送りについて、僕の今回の記事中では触れませんでしたが、テンションを失つ寸前までは送つてもいいはずです。具体的に言えば、エサ落ち目盛のひとつ前くらいまででしょう。まあこちろへんは、釣り人それぞれの判断ですね。リズムの作り方に関わってくると思いまます。しつかりしたエサで釣るなら、ある程度の時間かけて戻るのを待つ方がいいと思います。もちろん魚の状態によっては、しつかりしたエサを一氣食いするケースだってあるでしようけれど。いつでも竿を送つてしまつていた人にとっては、振り込んでウキが戻るのを待つのはつらいと感じます。でもやつてみてやうえば分かると思いますが、魚が居ればかなり早いタイミングで戻してきます。そのための「大きなズラシ」なのです。時間当たり10枚20枚といったリズムの釣りでは、竿を送るどころか、むしろテンションをキープするためには「引く」ケースが多い気がしています。ついでゼミ以降、たいして底釣りしてないんですけど（笑）。また、吉野氏は「誘い」になるという説明でしたが、ここは人それぞれの判断でいいのではないかでしょうか？

Q：5月号で参考にと言つていた吉野修さんとの釣りは竿を送つていきましたが、どういうごとですか？

江成のコメント：僕の記事でもあるつくり送つちゃダメという話ではないと書いてある筈ですが、多少の差はあるので説明していきましょう。

江成のコメント：御質問の「カウント」ですが、小池さんと北城さんは狙いが違います。北城さんは、打ち返すリズムの話で、小池さんは、仕掛けの着底位置の話です。完全にナジみ切るのを待つために、カウントするって事です。なるべく斜めに仕掛けを張りたいがためには、竿を送るまでの間をコントロールしているわけです。より斜め（遠く）の方が、「ぐの字」

吉野氏は、一目盛ずつ出していっていますね。少しずつ送る分には、テンションを失い切る心配がないので問題無いかと見えます。それに、氏はエサ落ちまで出切つたら打ち返すと言っていますね。その先是、テンションを失う危険があるわけですね。だから僕の記事と何も矛盾しないと思います。少しずつではなく、早いタイミ

江成のコメント：僕が尊敬してやまない伊藤洋一さんは、テンションをかけてはダメだと言つてます（5月号）。また伊藤さんはズラす釣りを否定しています。江成さんと伊藤さん、どちらを信じるかといえば、それは言うまでもあります。

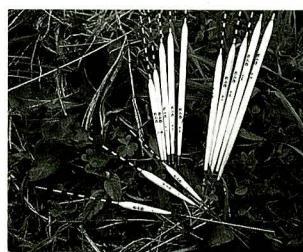
## 競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい…

へら浮子

杉山作

浅ダナスタイル  
【パートI・パートII・ワイド・ムク】  
(各1本4,500円)

フリースタイル  
深宙スタイル  
(各1本5,000円)



取り扱い店〈五十音順〉

埼玉・越谷 カわせみ（☎048・969・5067） 茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619） 東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）

埼玉・入間 三水堂つり具店（☎042・964・2093） 栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215） 神奈川・川崎 鮎仙人（☎044・287・7470）

東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923） 東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

トントン派なら送つてもいいとも書いてあったた  
はずです。

ボート釣りについても考えてみましょう。ボ  
ートでは揺れが半端じゃないですね。野釣り  
は流れも凄いですし、特にヤマなら波もありま  
す。竿を送らなければ釣りにならない状況が前  
提ですから、トントンでいいと思います。穂先  
からウキまでのテンションを無視しても構わな  
いタナ設定、それはトントンですよね。つまり  
トントン（前後）しかないように（＊）。ズ  
ラしたくとも、ズラせないというわけです。

5月号の伊藤さんの記事ですが、フィールド  
の活性に遡るところも大きいと思います。動き  
出したばかりのへら、素直だと思います  
。（もちろん伊藤氏のウデのせいじゃないと  
は言つてしません！ 最後まで読んで下さい！）

伊藤氏は6月号は西湖で釣つてましたが、や  
はり乗込み気味ですね。過去のゼミをよく読ん  
で欲しいのですが、北城氏だって、こういうと  
きは「底いらへん釣り」です。実は僕は西湖  
での両氏の釣りを、同じ日に見た事があります  
から間違いないです。「ボート」「野釣り」こ  
の二つのキーワードが大事です（＊）。

よせばいいのにもう少しコメントしちゃいま  
す（笑）。伊藤氏の言つている「サワリ・アタ  
リをはつきりと捕えられる」のはまさしくトント  
ンです。北城氏もそう考えてますし、僕だっ  
て記事にそう書きました。伊藤氏はスラした釣  
りが嫌いなだけで、ズラした釣りができるない訳  
じゃない筈です。それに、氏は速攻派です。つ  
まり落ち込み取りを狙つていく訳ですね。後ろ  
で見たんですけど、マジで凄いですよ。僕が言う  
のもなんですが、抵抗の大きいタナ設定（この  
場合はトントンのこと）をクリアするだけの  
技量（エサ勘、セッティング、リズム）を持つ  
ています。「僕には出来ない落ち込み（自然落  
下で食いやしいが、ウワズリと紙一重）での地  
合の維持」が抜群にうまい！といつたんですね。  
そりゃあ半端じゃないです！ ハリスが張るか  
どうかというアタリをバイブトップでとり続け  
る氏のウキの動きは、正直言つて、見てても僕  
には追い切れませんでした。

セッティングという面では、伊藤氏は僕（一  
般の人）より小さめのウキを使います。熱心  
な読者の方なら、小池インストラクターとその  
お弟子さん達（ビッグへら鮎会の人達等）のほ  
とんどがそうだという事に気付いていると思  
います。それから浅ダナ狙いでは小ウキを  
使うことに抵抗がない人でも、ビッグへら鮎会  
の人達が深宙や底釣りで使うウキが小さ過ぎる  
と感じる人もいるでしょう。でも、これがキモ  
なんだろうと思います。速攻で食わせるための  
「スロー」な落下（自然落下）。辻褄は合いま  
す。また、早いタイミングでの食いを演出する  
ための小エサに、大きいウキは要らないんで  
す。ウキには、エサを引っ張りおろす役目があ  
るわけですから、大エサでなければ小ウキでも  
十分用は足ります。それに、「魔法の粉」で芯  
を出しているとはいえ、ビッグさんの人達が多  
用するそのエサの軟らかさは、大ウキで引っ張  
るのをためらわれます。以前ビッグへら鮎会に  
在籍していた萩野氏も、セッティングやエサの  
タッチが伊藤氏と似てました。萩野氏の連載  
（＝「へら専科」）を読む限り、最近ではわり  
と普通の大きさ（一志作者）のウキも使うよう  
ですが、当時の萩野氏のエサは、僕が付けると  
ナジみ幅が出ませんでした！ エサ付けに拋る  
ところも大きいようです。伊藤・萩野両氏の釣  
りを見てから、僕の釣りは壊れました（笑）。  
スタイルだけ真似しても、簡単には結果が出な  
いどころかパンクです。それだけシビアなエサ  
合わせというか、ハイレベルなリズムの維持を  
しているんですね。早川インストラクターに  
「江成は何をしたいのか分からぬ」と言わせ  
てしまったのはこの頃です（笑）。当時の僕は、  
全くちぐはぐなセッティングでやっていたんだ  
と思います…。

Q：江成さんは、トントンを完全に否定してい  
るようですが、納得出来ません。ズラすより、  
トントンの方がいいケースだってあるはずで  
す。あまりにも一方的な記事にがっかりです。  
落ち込み取りとトントンの関係について書い  
ておきます。エサが底に付いた瞬間や、着底し  
てわりと早めに食つてくれるなら、ズラしたま  
までも速攻の（完全）底釣りになるんです。早  
いタイミングで戻りますから、水面上のトップ  
のナジみ具合が深いことによるカラツンも少な  
いですね。ところが、落下中に食わせようと  
あんまりいいようであれば、少しずつズ  
ラしてからアタリが出てきました。こ  
のまま決まればよかつたんですが、そうはいき  
ませんでした。いくらズラしてもカラツンが多  
いですね。これはおかしいと感じ、一度ト  
ンに戻してみました。エサが持つてないのか  
も知れないと思ったのです。ところがトントン  
ではキチンとエサの目方を感じることが出来ま  
せん。しかもトントンでも十分にアタってまし  
た（笑）。最初は寄りが足らなかつただけみた  
いでした（笑）。でもやっぱりカラツンなんで  
す。ズラしていたときに、さんざんアタリを送  
つてみていたので、持ち過ぎのカラツンも考  
えられません。

ここでもまたズラしていくても同じ事の繰り返  
しなので、ちょっとと考えてみました。上からも  
サワるので、魚の位置が高いのではないか？  
と。以前の僕はコレばっかりでしたが（笑）、  
今回ばかりはマジでそうだろ？と。あまり下を  
向きたがらない状態だから、底にあるエサを拾  
う力が弱いか、もしくは全てスレアタリだった  
のではないか？という想像ですね。

そこでエサを軽めに変更し、落ち込みで受け  
を出させたままアタラせるようにもつっていく  
と、一気にペースが上がりました。しかも型が  
ひとまわりもふたまわりもでかい！ 型が良く  
なるつて「きまり」のサインですね。得意の  
(笑)「竿送り」を駆使して、へらのサワリ、  
受けをコントロール…かなりギリギリの釣り  
なんで、すぐ壊しちゃうんですけど、修正しな  
がらなんとか釣れ継ぎました。先程の方の質問  
に、伊藤洋一氏の名前が出ていましたが、おそ  
らく氏なら倍は釣るでしょう。そういう地合に  
感じられました。

ですから、決して「トントン」や「底いらへん釣り」を否定しているわけではないのです。

ラしていくのが昔からのセオリーですよね。  
…以前の僕が否定していたセオリーですが  
(笑)。今回のケースでは、サワリはあるもの  
のアタリが出ませんでした。そして「ハリスへ  
の警戒心？」と考えて、少しずつズラしていく  
たのです。

しばらくしてからアタリが出てきました。こ  
のまま決まればよかつたんですが、そうはいき  
ませんでした。いくらズラしてもカラツンが多  
いですね。これはおかしいと感じ、一度ト  
ンに戻してみました。エサが持つてないのか  
も知れないと思ったのです。ところがトントン  
ではキチンとエサの目方を感じることが出来ま  
せん。しかもトントンでも十分にアタってまし  
た（笑）。最初は寄りが足らなかつただけみた  
いでした（笑）。でもやっぱりカラツンなんで  
す。ズラしていたときに、さんざんアタリを送  
つてみていたので、持ち過ぎのカラツンも考  
えられません。

した場合、ズラすと滞空時間が短いんですよ。  
すぐ底に着いてしまうんです。また、落ち込みで  
へらに受けさせて釣りたいわけですから、きち  
んとした落とし込みの方が、簡便に寄ります。  
(振り切った方が、落下時間は長いですが、簡  
便に寄せるという観点から落とし込みなんです。

ケースバイケースでどうが）考え方は宙です  
ね。深宙と全く同じです。落とし込みでナジみ  
際のサワリをキチンととらえるためには、ハリ  
スが必ず張るタナ設定にする必要もあります。  
つまりトントンです。このへんは2月号のゼミ  
を参考にして下さい。

\*補足…あくまでもヤマでの話です。可能なフ  
ィールド、ポイントであればきちんとボートを  
固定出来れば済む話です。例えば水棹を使う舟  
釣りなら、三本持つて行くのがベターですし、  
ローブが張つてある釣り場なら、振れ止めの側  
や、思い切つて岸付けがいいというわけです。  
余談ですが、伊藤さんを始め「名手」と言わ  
れる方は、なるほど岸付けの出来るポイントを熟  
知していて、例会時などはローブを避けてそう  
いったポイントに入ることが多いと聞きます。

# 釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへあ鮎会
- 2.ぐりへあ鮎会
- 3.ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴 舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに  
転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
ひとりえぐり

<http://www.office27.com>  
E-mail:info@office27.com



## 底釣り編最終回にあたって…

今月で「底釣りゼミ」は完結しますが、7ヶ月間もの長い間おつき合い頂いた北城氏には、たいへん感謝しています。ありがとうございました。とても言葉では言い表せない程です…というわけで（笑）、北城氏と僕との思い出を書かせていただいて、お礼の言葉の代わりとさせて頂きます。

江成公隆

僕が北城氏に初めてお会いしたのは、オープン間もない野田幸手園でした。ゴルデンクラブと北斗へら鮎会の懇親釣り会かなにかだったと記憶しています（違ったかな？）。当時まだゴルデンにしか所属していないかった僕は、氏と面識はありませんでした。氏の実力も知らなかった僕は、怖いもの知らずで隣の釣り座に陣取りました。その日の幸手園は残念ながら極度の食い渋りで、当時の僕が得意としていた宙は不発。底釣り組のみがボツボツと竿を絞るといった状況でした。底釣りをしていた氏の横で、よせばいいのに僕も底釣りに挑戦。けれども全く釣れません。実際に底も悪かったのですが、一番悪かったのは僕のウデですね（笑）。ボツボツと絞り続ける北城氏に対し、「このおっさん、なかなかやるな～」というのが僕の第一印象でした。当時の北斗へら鮎会といえば、今はなき「ふまつげん」の4人のインストラクターのうち、小池氏を除く3人までが所属する、それはそれはスペシャルな会でした。ゴルデンと姉妹会である北斗には、いつか僕も入会したいと憧れています。ふと見ると、憧れの早川インストラクターが、なにやら親しげに「となりのおっさん」と話しか込んでいます。世間知らずとは恐ろしいものです（笑）。その帰り道、先輩方に北城氏の話を聞かされ、青ざめた僕でした。

数年後、プライベートで野釣りを幾度か経験し、管理釣り場で覚えた宙でも「効く」と判断した僕は、底釣りを覚えないまま、無謀にも北斗へ入会してしまいます。平日のクラブという事もあり、たしかに宙で釣れる例会は少なくありませんでした。とくに両ダンゴで釣りとおすような会員の方が多くて、こっそり（笑）得意の短バリスセットでなんとか釣りになりました。しかしやはり野釣り場でした。底釣りの強さは嫌というほど見せつけられましたし、底釣りでしか釣りにならないケースも管理釣り場よりはあきらかに多かったです。

底釣りの重要性と面白さに気付いた僕は、思うように釣れないながらも底釣りばかりやるようになっていました。ある北斗の例会での事です。偶然に北城氏のそばのポイントに入った僕は、自分なりに一生懸命底釣りをしていました。でも全然釣れませんでした。アタリがないのです。2～3時間頑張りましたが、あきらめて移動する事に。その際、北城氏の後ろへ回り、1時間程レクチャーしていただきました。これが僕にとっての「底釣りゼミ」の第1回目の授業でした。「食い上げはどういう時に出るのか？」という質問はこの時のものです（笑）。氏の底釣りも、あまり芳しくないようでした。もっとも僕よりは釣っていましたが、アタリも散発でした。ところがこの日の釣りは、実は氏にとって大きなターニングポイントだったという話を、先日聞かされました。実はこの日、同じロープにもうひとり例会とは関係のない方が入釣されていたのですが、その方の釣りが氏にとって大きなヒントになったそうです。僕は北城氏ばかり見ていましたが、気付かなかったのですが、実はかなりいいペースで釣っていました。氏はずっと気になっていたそうです。氏は、最初は場所の差を感じたようですが、よくよく見ると大きな違いがある事に気付いたといいます。それは「回し振り」でした。氏も冗談半分で振り切ってみたところ、イレバクに突入。「仕掛けの角度」、「ズラシの効果」を再考するきっかけになったといいます。僕が底釣りの神様に初めてコーチしてもらった日に、その神様も進化していましたなんて、なんとも不思議な巡り合わせです。

宙釣りから覚え、まともにタナも測れなかったような自分が、これほど長い期間、底釣りの記事を書くとは思ってもみませんでした。原稿を書いていても、ずっと不思議な気がしていましたが、もしかかると、氏に初めてコーチして頂いたあの日に決まった運命だったのかもしれません…。

## 「希代の釣り手」と「希代の聞き手」が生んだ奇跡！

それにしても、今回の「北城 錦の底釣りゼミ」での江成の熱筆ぶりは、まさに「壯絶」という言葉が相応しいものだったと思う。

彼の情熱があったればこそ、「希代の名手」と言われながら、なぜかこれまでメディアが大きく深く取り上げることのなかった北城理論が、こうして活字として炙り出されたのだと確信する。北城氏も、自分の理論を咀嚼し、表現しうる「聞き手」と初めて出会ったのかもしれない。僕は江成と北城氏の取材の場に同席させてもらったが、江成のねちっこいツッコミに、「まいったなあ～」とはにかみながら真剣な眼差しで答える北城氏は、とても嬉しそうにも見えたのである…。

江成のこの記事に賭ける情熱は、それはもう圧倒的な迫力だった。そして、本来、プロである我々編集者こそ、江成公隆を上回るスピリットを燃えたぎらせていなければならないのだと、改めて思い知らせてくれたのである。日常の忙しさと「慣れ」が、いつしか編集者からその手の情熱を奪い去ってしまう。しかし、いつの時代も「希代の釣り手」は、「希代の書き手」を待っているのだ…。

さて、「江成公隆のトーナメント復活への道。」は、まだまだ続く。

「月イチ釣り師」の江成は、本気で完全復活を企んでいる。来月号からまた、新たな試行錯誤や問題提起、そして、数々の挑戦が待っていることだろう。新展開、お楽しみに！

by 里ちゃん

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける…

# へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.451  
July, 2003

7

四番川調整池、秀天、岡山へら浪漫。

名手・石井旭舟がいくへらぶなトーナメント  
へら浪漫街道

桑留比～前浜。西湖の藻場を攻めろ！

スーパーングラー小池忠教の

エサ合わせ大全

Tadanori Kotke's Sence of Hera Bait!

柳生F.P月例大会で頭を狙え！

杉山達也のスラッシュヒートII

SPLASH BEAT!!

星野和之登場！ 野田幸手園での爆釣技とは？

プロフィッシャーマン田辺哲男の

『それってどーゆーことよ?』

岐阜県・三川フィッシュパークに遠征！

DUEL GIRL 吉川ひとみ

「へらって バイ わっ!!」

野釣り讃歌特集

乗込みだけじゃない、魅力満載のフィールド！

## 印旛沼を見直そう！



野釣り応援連載！

山内研作・生井澤聰の

大型狙いの樂釣宣言！

## 野釣り万歳！ 「甚兵衛広沼」で巨ベラが出た!! 山内研作、印旛沼にハマる。

へら鮎釣り新時代宣言特集I

マルキュー＆釣りビジョンが打ち出す新機軸、その姿を現す…。  
超弩級、「巨ベラ合戦」の様相を呈した第1戦を、完全レポート！

## Neoへら インビテーションナル

第1戦 高滝湖

石井旭舟/田辺哲男/棚網 久  
中澤岳/熊谷充/岡田清/小林恭之  
都祭義晃/戸井田祐一/静野圭一  
小山隆司/川口直人/柳栄次

へら鮎釣り新時代宣言特集II

ついに動き出したNHCへらぶなトーナメント。  
へら鮎界に新風を吹き込まんとする、挑戦者達の燃え上がる情熱！

## NHC発足スペシャル対談。

田辺哲男×小山隆司

第3回

# 本 格 大 決 定 戦

次の王者は誰だ。

つれるエサづり一筋  
**マルキュー**

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堤2-4 TEL:048-363-8509  
TEL:048-728-0909(代) FAX:048-728-3909  
大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 TEL:072-572-0811  
TEL:072-824-0909(代) FAX:072-825-0909  
四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 TEL:0762-0053  
TEL:0877-44-0909(代) FAX:0877-44-3909  
九州営業所 佐賀県鳥栖市始方町341-8 TEL:0942-81-0023  
TEL:0942-82-0909(代) FAX:0942-83-0909

<http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら  
iモード・ホームページ

<http://www.marukyu.com/i>

開催日 平成15年7月21日(祝)

場所 筑波流源湖

参加定員 300名(先着順)

6月2日、募集開始。

\*大会詳細については、本誌191ページをご覧ください。

